



豊作のサツマイモを収穫

(11月13日)

南小学校1・2年生の41人が、サツマイモ掘りを体験しました。収穫を迎えたサツマイモは、地元シニアクラブの協力で、5月下旬に植えられたものです。児童たちは、掘った土の中から自分の顔ほどもある大きなサツマイモが出てくるたびに、歓声を上げていました。自分で収穫したサツマイモをうれしそうに抱え、自宅に持ち帰りました。

力強い演奏で観客を魅了

(11月14日)

裾野吹奏楽フェスティバル2020が市民文化センターで行われました。青少年の育成と音楽文化の振興を目的とした演奏会には、市内の小・中学校、高校の吹奏楽部5団体が参加しました。今年は新型コロナウイルス感染症のため、思うように練習ができず苦勞が絶えなかったそうですが、15曲の力強い演奏に対し、会場の聴衆から盛んな拍手が贈られていました。



交流を深めながら楽しくプレー

(11月14日)

総合グラウンドで東部ブロック グラウンドゴルフ 交流会が行われました。この大会は、障がいのある人が、競技を通じて運動機能の向上や積極的な社会参加への推進を図るため開催されています。県東部地域の7市町から約80人が参加され、雲一つない青空の下、他市町の人とグループになり、交流を深めながら元氣良くプレーしていました。

栄橋87年間ありがとう

(11月15日)

石脇区民約50人が、3月末で撤去される旧栄橋に感謝を示すため、橋で記念撮影を行いました。旧栄橋は昭和8年に完成し、主要地方道富士裾野線の佐野から須山に至る幹線道路の石脇と千福の間に掛かっています。昨年新しい栄橋が完成したことで、87年に渡る役目を終えました。当日は子どもからお年寄りまでが参加し、思い出話に花を咲かせていました。





入団時の決意や訓練での体験を発表 (11月18日)

市民文化センターで防災のつどいが開催され、約240人が参加しました。消防団意見・体験発表では、代表者3人が入団した時の決意や、日頃の訓練での体験などを力強く発表しました。続いての防災講話では、三島市三恵台自主防災会の秋山さんらが自分たちの活動事例を紹介しました。

特派員：小林 建次、杉本 武満

“思い出の交差点” 裾野市Ver.を制作 (11月26日)

市と株式会社TOKAIケーブルネットワークが、ご当地ソングを共同で制作するに当たり、歌手の太田克樹さんとカテリーンさんが市長を訪ねました。2人を迎えた市長が「市制50周年の良い記念となります」と話すと、歌手の2人からは「歌詞を皆さんから募集するとのことで楽しみ。完成したら裾野市だけでなく、世界に発信したいです」と意欲を語ってくれました。



自転車競技の普及のために (12月2日)

市役所で県東部地域を拠点として活動する、日本初の女子国際自転車チーム「ハイアンビション2020JP.」と包括連携協定を締結しました。今後、同チームと当市は、サイクルツーリズムを通じた地域活性化や自転車競技の普及などを推進します。また、(一社)日本パラサイクリング連盟とも同様に協定を締結し、障がい者のスポーツ振興の普及・推進の連携を確認しました。

市町対抗駅伝の結果を報告しました (12月6日)

新型コロナウイルス感染症の影響で例年の大会と趣の異なる中でしたが、裾野市は練習の成果を発揮して、市の部6位という歴代最高順位タイでゴールし、10区と11区では区間賞や区間新記録をマークしました。選手は市役所を訪れ、市長に結果を報告しました。選手代表の人からは、家族やチームメイトへの感謝の言葉が述べられました。

